

令和2年度 歯学部過年度卒業生へのアンケート調査結果について

1. 趣旨

岩手医科大学では、本学における教育の質保証を目的として、平成30年に「学習成果の評価検証方針及び指標」を定め、これによって3つのポリシーに基づいた教育が実施されているかを検証することとしている。

ここでは、指標の一つである「卒業アンケート」について、卒後5年、10年の学生（薬学部は5年のみ）を対象に実施したアンケート調査結果について報告する。

2. 概要

調査対象 歯学部卒業生

第41期生【平成23年3月卒業】 100名（卒後10年目）

第46期生【平成28年3月卒業】 48名（卒後5年目）

調査期間 令和2年7月1日（水）～9月11日（金）

実施方法 インターネット（Google Form）を利用したWebアンケート

- 質問内容
- ① 氏名、性別、年齢、お住まいの地方、卒業年度（〇期生）
 - ② 現在の状況、勤労状況、勤務形態
 - ③ 臨床研修を受けた都道府県、専門研修（後期研修）の選択科または選択予定科※医学部のみ
 - ④ 専門医の取得状況 ※医学部のみ
 - ⑤ 学位の取得状況、満足度 ※医学部のみ
 - ⑥ 学位授与方針に対する卒業時の自己評価
 - ⑦ 岩手医科大学での学びのキャリア選択への貢献度 ※医学部のみ
 - ⑧ 岩手医科大学のカリキュラムに対する満足度
 - ⑨ 岩手医科大学での学びの地域医療への貢献度
 - ⑩ 岩手医科大学への満足度
 - ⑪ その他

3. 結果

【回収率】

歯学部 第41期生 22.2%（20人/90人（100人）） 第46期生 26.1%（12人/46人（48人））

詳細は別紙の通り。

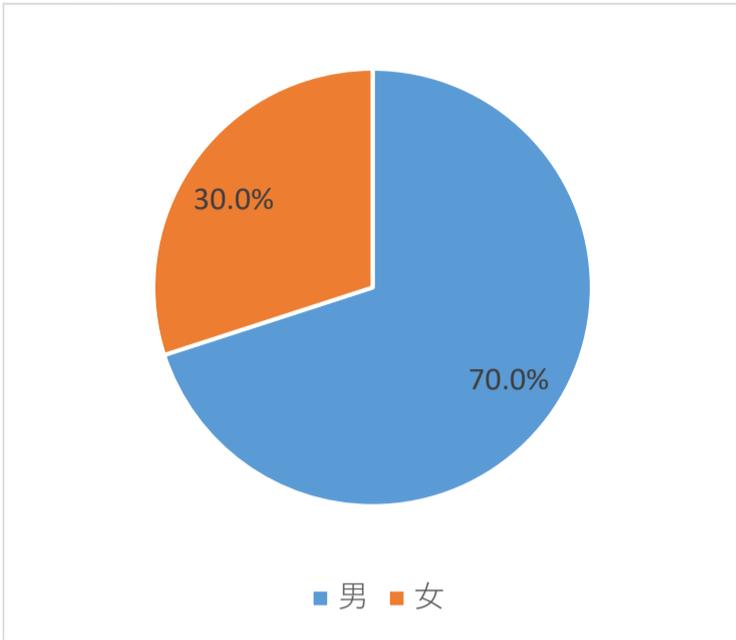
4. 総括

【歯学部】

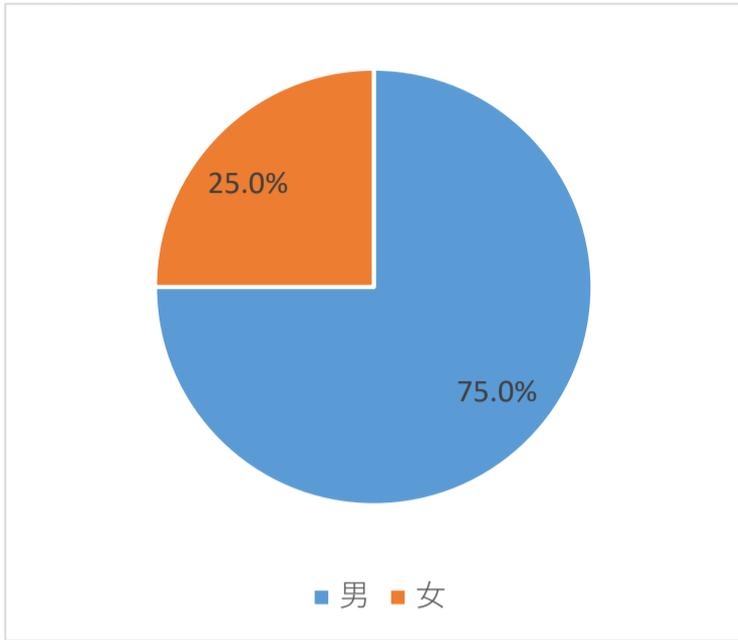
- ・設問 2 勤労状況について、46 期生（卒後 5 年）では大学病院で働く人数が最多であったが、41 期生（卒後 10 年）では医療法人や個人（開業）の人数が多くなる傾向があった。
- ・設問 4 学修成果の達成では、総じて 41 期生よりも 46 期生の方が達成度は高い。一方、「高水準の診察能力」「国際貢献への資質」「研究マインド」は、41 期生、46 期生のいずれも低い傾向にあった。
- ・設問 5 カリキュラムへの満足度について、41 期生では「満足している」「ある程度満足している」が合計で 60%程度にとどまっているのに対して、46 期生では 75%まで増加している。ただし、満足していない学生も一定数存在している。一方で、地域医療への貢献度は比較的高く評価されており、本学の使命が実行されていることが分かる。
- ・設問 7 本学を卒業してよかったかという問いに対して、「良かった」「どちらかといえば良かった」が 70%程度を占めており、満足度は高い。

歯学部

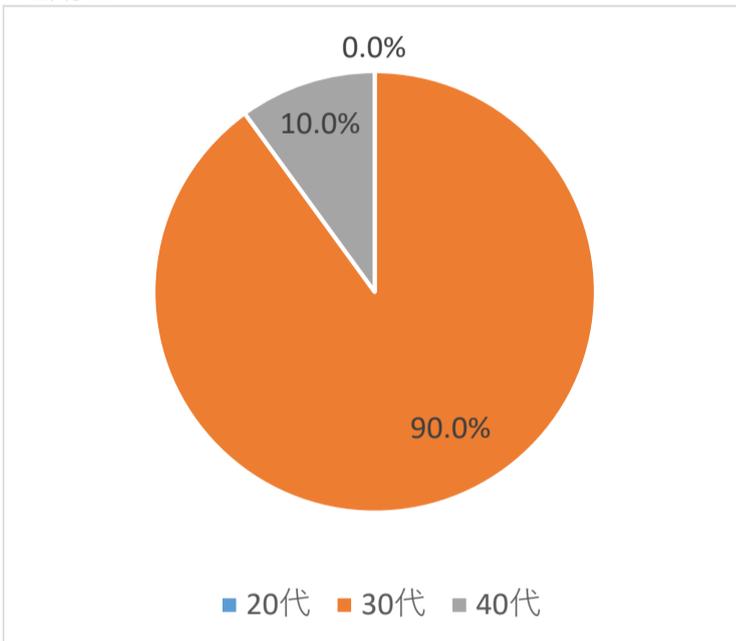
性別
41期生



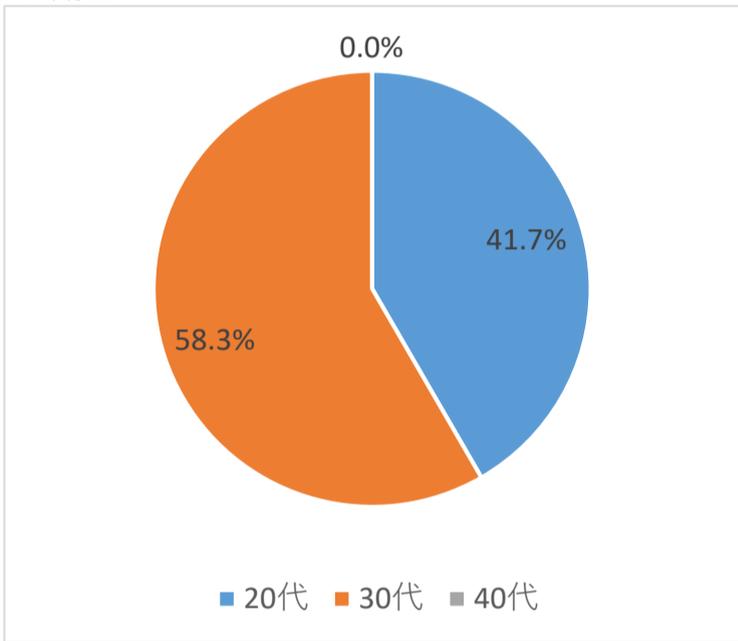
46期生



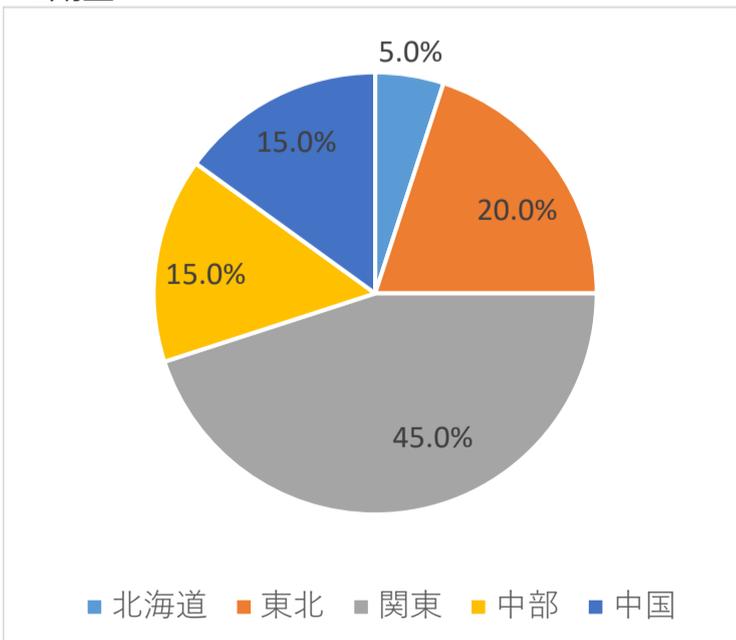
年齢
41期生



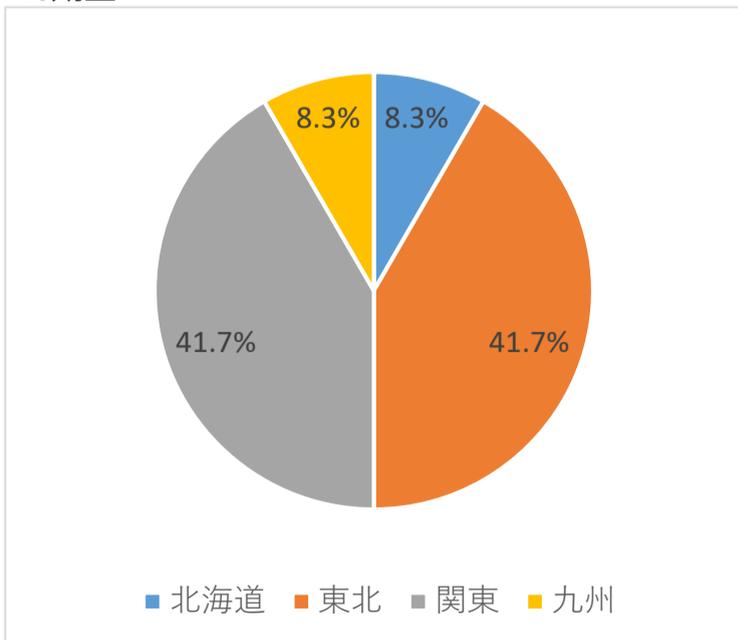
46期生



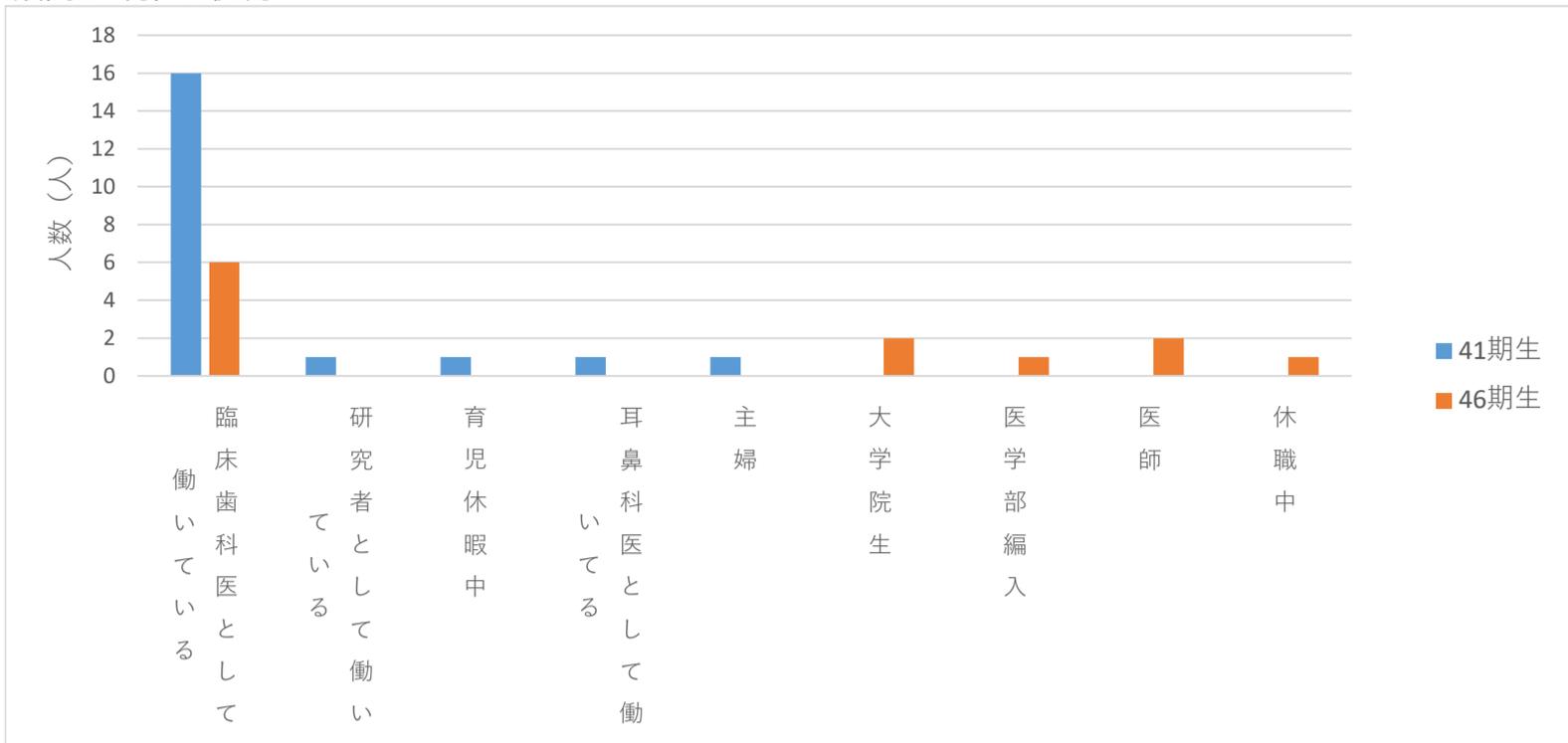
住まい
41期生



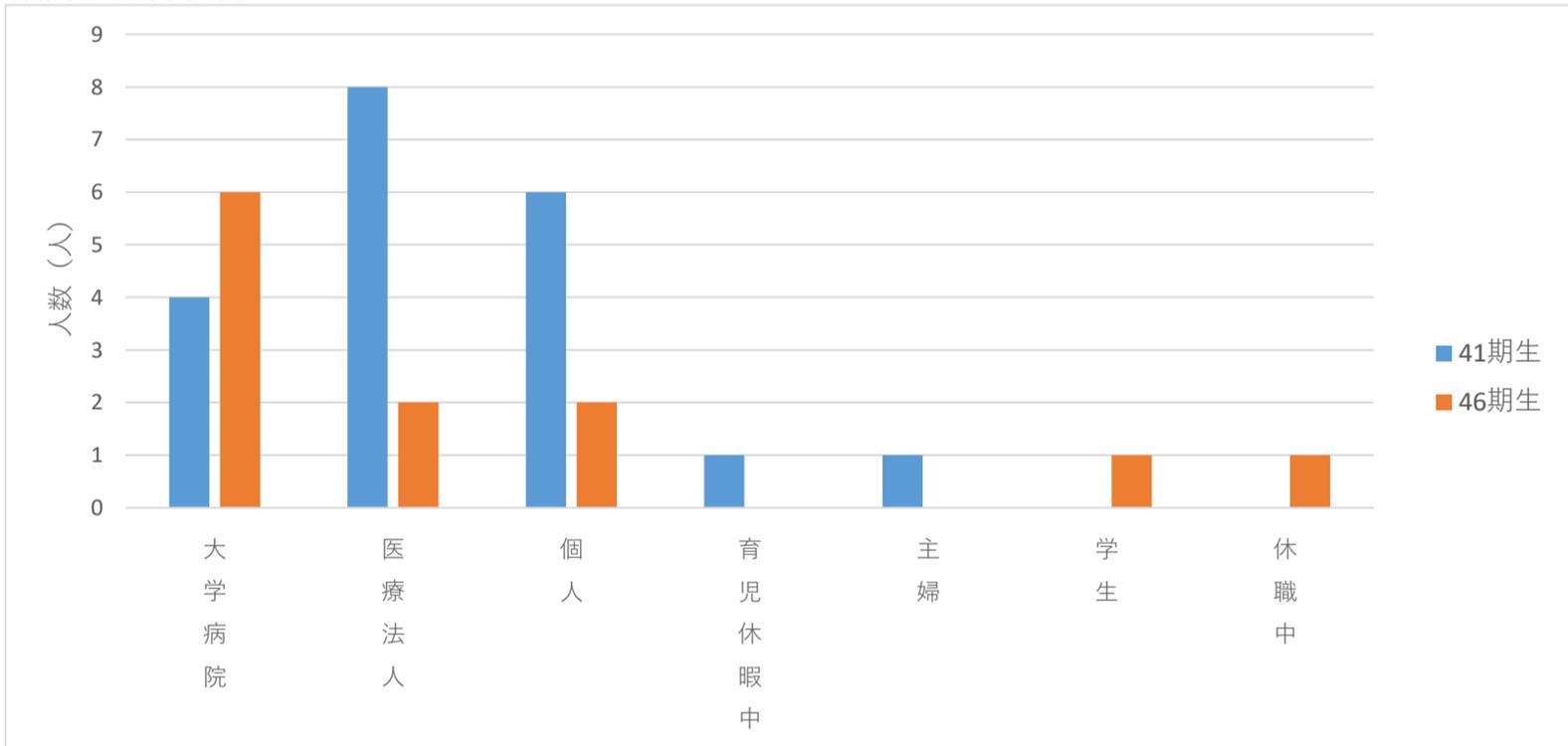
46期生



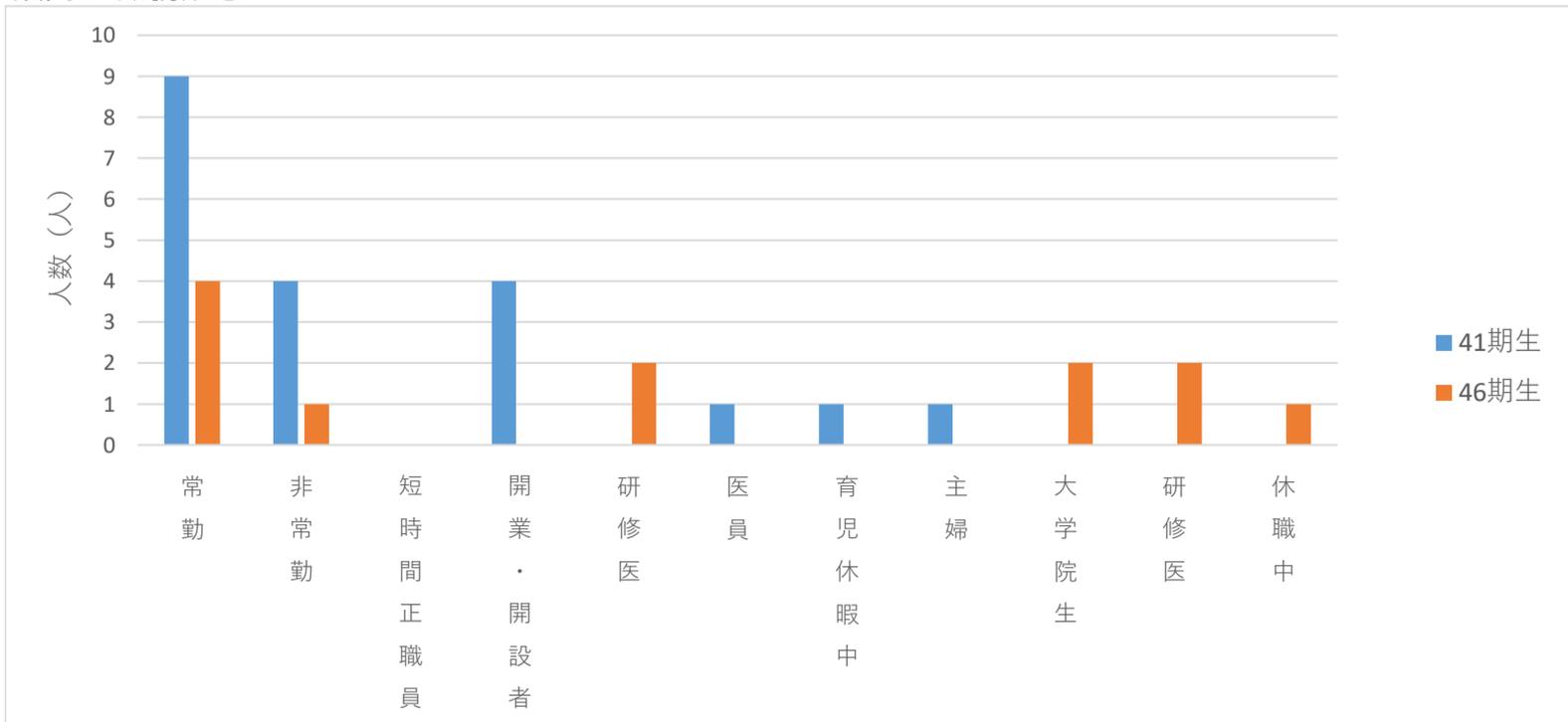
設問1 現在の状況



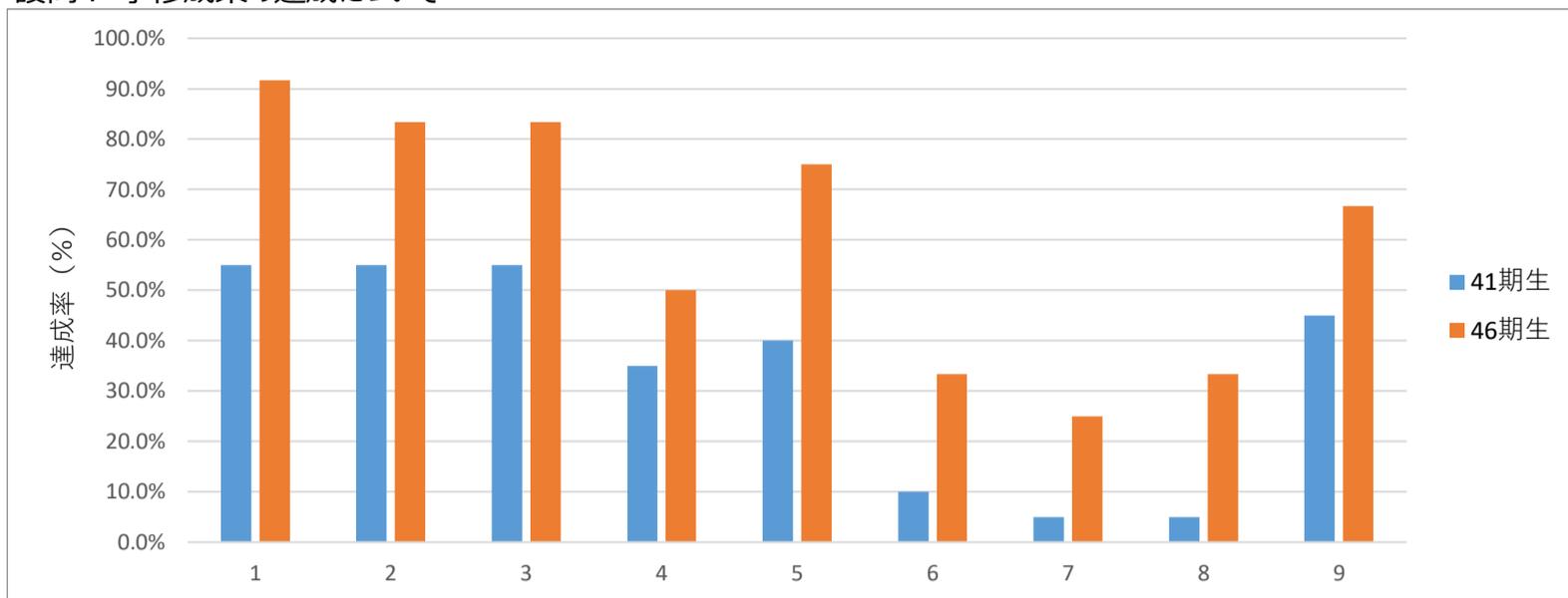
設問2 勤労状況



設問3 勤務形態



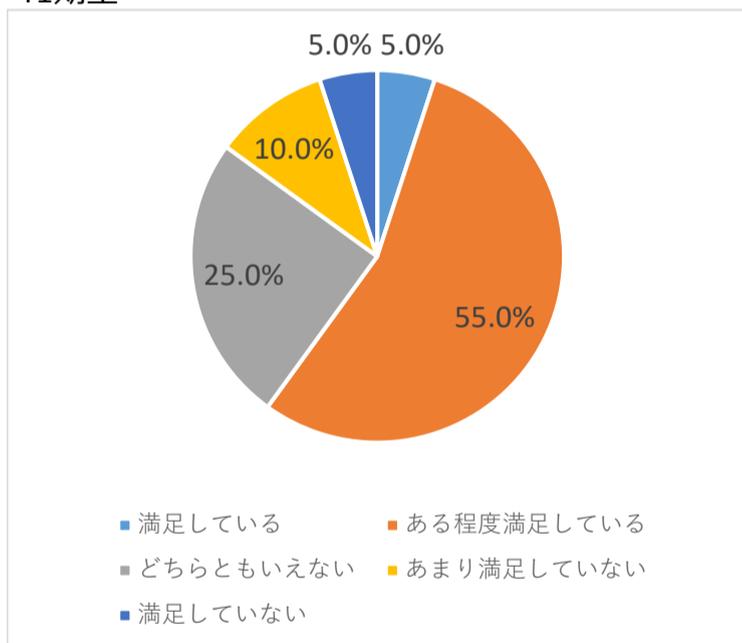
設問4 学修成果の達成について



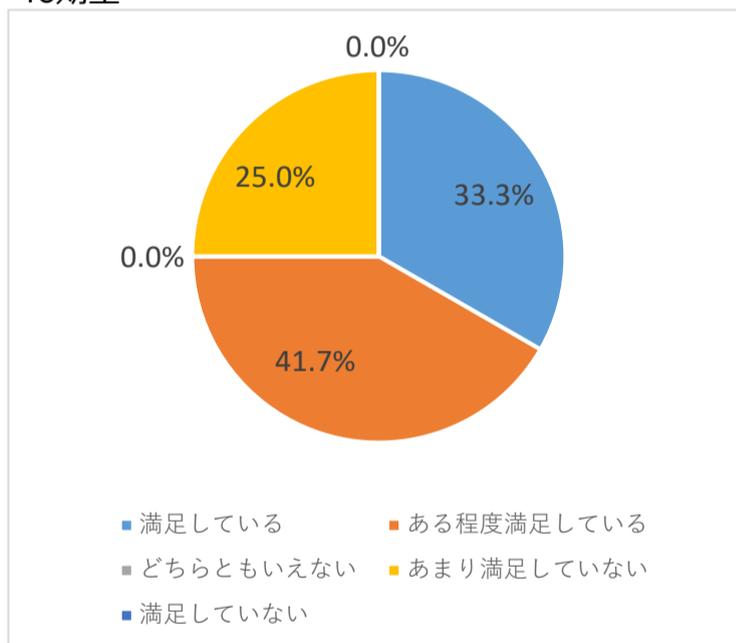
1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。(プロフェッショナリズム)
2. 患者・家族に歯科医療の内容をわかりやすく伝え、彼らの気持ちに配慮しながら良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。(コミュニケーション能力)
3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。(チーム医療の実践能力)
4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。(包括的歯科医療の実践能力)
5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取り組む態度・技能が備わっていること。(地域保健・医療の実践能力)
6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。(高水準の診療能力)
7. 国際的な保健・医療活動に参加するための態度と基本的な語学能力を有すること。(国際貢献への資質)
8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。(研究マインドの保持)
9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。(生涯学習の実践)

設問5 カリキュラム満足度

41期生



46期生



(記述回答)

41期生

- 臨床手技の時間が少なかった
- 臨床実習で1人の患者さんを見るわけではなく、断片的に治療を見ていたので、あまり患者ごとの治療のゴール設定や色々な治療選択がある中でなんのためにその治療選択をしているのかわからなかった。電子カルテでも学生の権限ではカルテ閲覧が出来なかったので出来たら少しは違ってたんじゃないかと思いました。
- 昔、治療に全然参加出来なかったことな比べ今の5年生の当院実習は素晴らしいと思います。ただ、先生方の負担が大きすぎるのが心配です
- その場しのぎの教育しか行っていないので、継続性が無い。
- ポリクリ時もっと実際の患者に触れる必要がある
- 今現在の歯学部教育ほど、学生教育に特化したカリキュラムではなかった
- 10年前とは違うと思いますが、大学を卒業後、学生時代に医科系の勉強も多少出来た事は、自らを助けました。

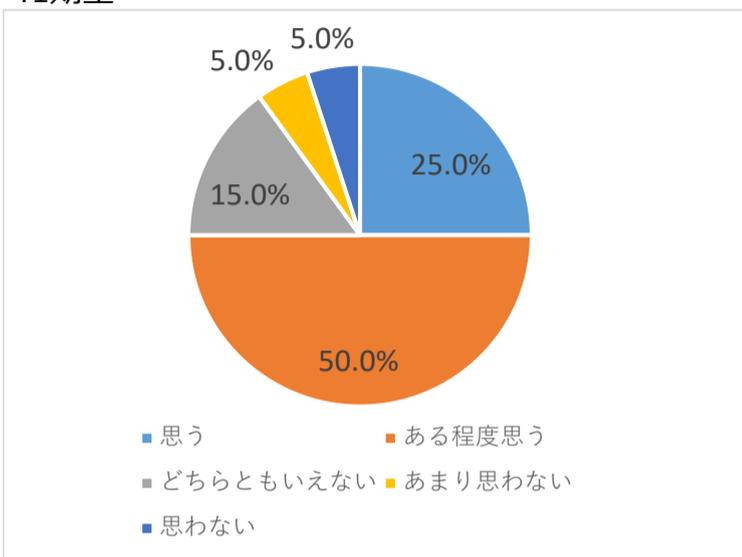
設問5 カリキュラム満足度（記述回答 続き）

46期生

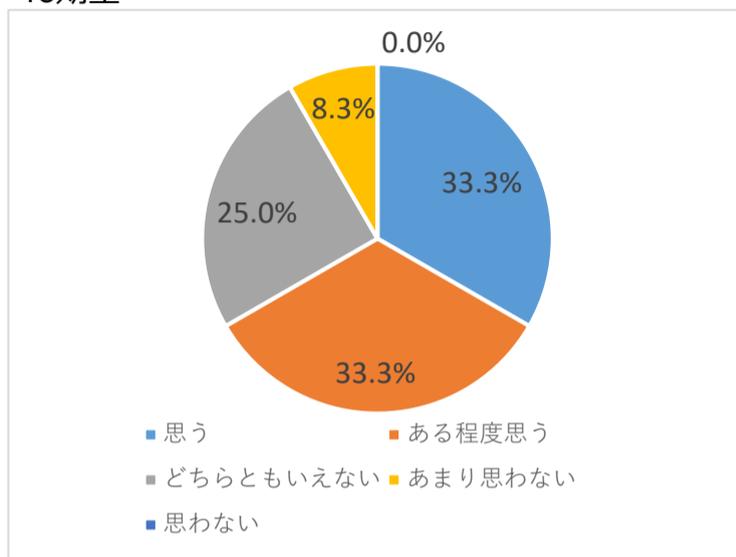
- 素晴らしいと思います。今後も是非続けて下さい
- ポリクリは大変でしたが、臨床的な歯科知識を数多く学びました。
- 無駄な拘束時間が多かった

設問6 岩手医科大学で学んだことは地域医療への貢献に寄与していると思いますか。

41期生

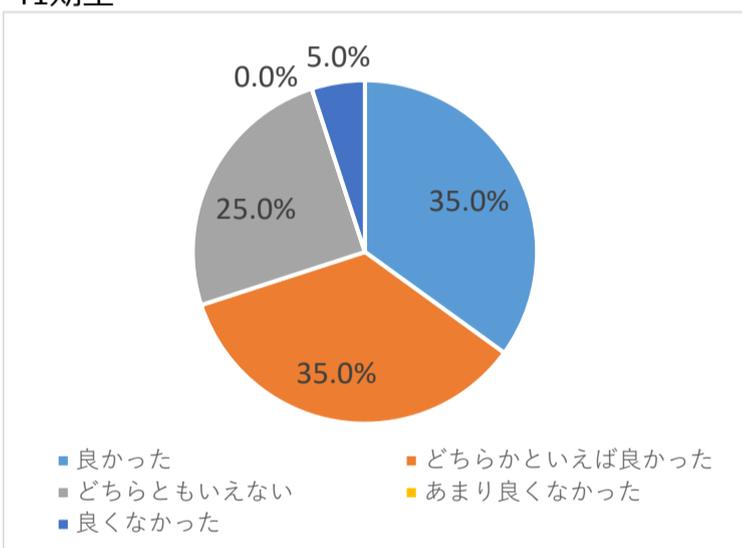


46期生

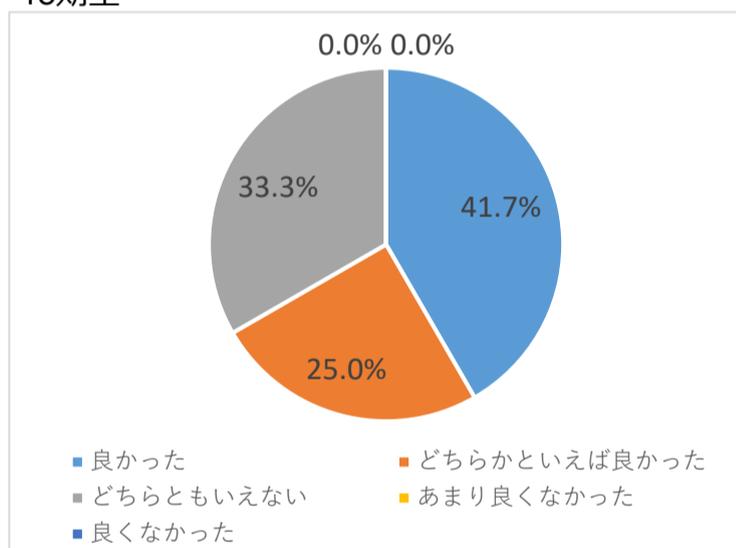


設問7 岩手医科大学を卒業して良かったですか。

41期生



46期生



（記述回答）

【良かった】

41期生

- 社会人からの入学に寛容でいまでも卒業したことに誇りをもてること
- 周囲の環境が良かった
- 地元から離れて生活しながら学生をする経験が出来て、人生の糧となったから。

46期生

- 経験した全てが貴重なものなので
- 歯科医師免許を取得出来たから。
- 実家近く
- 臨床実習が充実していた。ソサイエティ制度が良かった。夜遅くまで勉強できる環境が整っていた。

設問7 岩手医科大学を卒業して良かったですか。(記述回答 続き)

【どちらかといえば良かった】

41期生

- 卒業後も連絡を取り合い情報を共有し切磋琢磨している同級生・先輩・後輩の存在。ただ、地元と遠いので同窓会などのイベントに参加しづらい。
- 今でも大学のことを頼りにできるから、
- 歯科・医科の知識を学ぶことができた。耳鼻科医としてとても役立っている。

【どちらともいえない】

41期生

- 周りにOBがあまりいない

【良くなかった】

41期生

- 学生を第一に考えて教育を行って欲しい。

設問8 その他、大学への意見をご記載ください。

41期生

- 授業と国家試験の内容にズレがあった。受験勉強をする環境がと整っていなかった。進級、卒業の基準が高い割には授業の教え方が良くない事が多かった。
- 勉強会を東京など大都市でも行って欲しい。
- 働きながら研究する事に興味があるが、生活が大変そうなことを考えるとなかなか足がすくんでしまう。その辺も良くなると大学にもっと貢献できるのではないかなと思っています
- この先の100年を見据えて発展してほしいと思います
- 学生のモチベーションをあげるような授業内容・カリキュラムが必要だと思う。ハーバード改革は良いと思うが、教員の負担も大きいと思うので改善してほしい点もある。
- 素晴らしい人材の育成に尽力される大学関係者全ての方々に感謝いたします。時代に合わせて、様々な形で発展されます事をお祈りいたします。

46期生

- カリキュラムが整っており、真面目に履修を行っていけば、初学者でも国家試験を合格するのに十分な学力を身につけることができると思った。
- 卒業試験の問題を公表しなかったり疑問がいくつか残りました。